学芸員課程 50 周年記念シンポジウム開催によせて

法政大学資格課程委員会
委員長・教授　田中　充

法政大学の博物館学芸員課程は 1964 年に設立され、今年、設立 50 周年を迎えました。シンポジウムの開催に際しては、2013 年度まで資格課程委員長を務められた田中優子総長が開催のご挨拶を行い、「キャンパスがミュージアム」というお考えについて話されました。

プログラムの前半の記念講演では、段木一行元教授が、本課程設立当時やボアソナード・タワーに博物館展示室が開室したときのことや、展示室を使用した最初の企画展についてなど、当時の思い出をふりかえられました。つづく基調講演では、本課程を担当している金山喜昭教授が、学生に行ったアンケートの結果を分析し、旧カリキュラムから新カリキュラムへの移行について検証を行い、新カリキュラムの導入によって学芸員の関連科目全体の教育の質が向上していることを報告されました。

後半では、金山教授による進行のもと、シンポジウムⅠ「新カリキュラムの実践と課題」と、シンポジウムⅡ「大学における学芸員養成を展望する」の二つのプログラムが行われました。

シンポジウムⅠでは、本学で博物館科目を担当している今野農兼任講師、里見親幸兼任講師、菅井薫兼任講師、杉長敬治兼任講師、田尻美和子兼任講師が、担当授業での新カリキュラム移行後の 2 年間の経験をもとに、新カリキュラムを実践するうえでの工夫と課題についての報告を行いました。

続くシンポジウムⅡでは、文部科学省（当時）の栗原祐司東京国立博物館総務部長が行政の立場からの学芸員養成課程の設計について、お茶の水女子大学の鷹野光行教授が博物館法の改正と新カリキュラムについて、國學院大學の青木豊教授が高度博物館学教育について、明治大学の矢島國雄教授が海外の博物館学芸員の事例などについて、それぞれのご専門分野からお話をされました。後半においては、新カリキュラム実施の評価と大学院教育のあり方、学芸員の就職状況についての有益な議論をすることができました。

今回のシンポジウムは、大学や学芸員関係者だけでなく、参加した本学の学生全員にとっても、本課程の歴史と現在のあり方などを総合的に考えることができた、大変有意義な機会になったのではないかと思います。

最後になりますが、お忙しいなか、本学の学芸員課程 50 周年記念シンポジウムにご参加いただきました皆様に、改めて感謝の意を申し上げます。今後とも皆様のお力添えを本学・学芸員課程に頂ければまことに幸甚です。